

喜びの気持ちが原動力に

♪『わくわくキッチン』を通して♪



わいわいみんなで手巻き寿司♪

これまで、ケアホームで過ごされている利用者の方の食事は、センター内の厨房で調理した物を配達するところがほとんどでした。そのため、調理員は利用者の方とかかる機会はほとんどなく「本当に利用者の方に食事を喜んでいただいているのだろうか…」と不安に思いました。



日々の生活の中で『食』から得られる楽しみは、とても大きいことかと思います。あすわ就労支援センター食養部では、平成24年5月から『わくわくキッチン』という取り組みを行っています。

日々の生活の中で『食』から得られる楽しみは、とても大きいことかと思います。

日々の生活の中で『食』から得られる楽しみは、とても大きいことかと思います。

そこで食養部では、利用者の方に、調理を通して楽しみながら食に対する関心や興味を深めていただく目的で、実際に調理員がケアホームに出向き、利用者の方と一緒に調理することを検討していました。

そこで、日々利用者の方とかかわっている支援員と連携し、利用者の方が参加しやすい活動内容や説明方法などを相談していました。そうすることによって、より一層準備に力が入っていきました。



まずは栄養士が各ケアホームを訪ね、利用者の方一人ひとりの希望を聞いていくことから始めました。

利用者の方からは「お寿司が食べたい!」や「ハンバーグを作つてみたいな」など、さまざまな希望が出てきました。中には、なかなか自分の思いを伝えることが難しい方もいましたが、担当の支援員が間に入ることで、利用者の方の緊張も和らぎ、希望をうかがうことができました。その希望に添える



栄養士がみなさんの希望をうかがいます☆



おいしく！
の一言が喜びに
の

『わくわくキッチン』当日、

利用者の方一人ひとりに役割を担つていただき、調理員が付き添いながら調理を進めていきました。最初は、どの利用者の方からも「包丁持つのが怖い」「どうやってやればいいかわからない」など不安な気持ちがうかがえました。

した。

しかし、調理員が「ゆつくり

に参加される様子が少しづつ見られました。また、利用者の方同士でお互いに「こうやるんやざ」と教え合いながら、楽しそうに和気あいあいと協力して作られる場面も見られました。

このように、利用者の方と一緒に楽しく調理をし、利用者の方から「おいしいよ！」

緒にやつてみましよう」など、声かけを行つたり、手本を示したりすることで「わかつた、できそ」「私もやつてみる！」と、とても意欲的に

「楽しかった」と笑顔で返していただけたとき、調理員にとつてこの上ないれしさを味わうことができました。

経験が
きつかけて…

『わくわくキッチン』をきっかけに、利用者の方の日常に1つ楽しみが増え、また調理を通して、自分たちで作つたのだという達成感が芽生え「次は○○に挑戦してみたい」と意欲的な言葉が

聞かれるようになりました。また、調理員も利用者の方とかかわる機会が増えたことで、利用者の方から思いを直接うかがうことができ利用者の方に喜んでいただきたい」という意欲がさらに高まり、職員のやりがいにつながつていきました。

「より良い食事の提供をして利用者の方に喜んでいただきたい」という意欲がさらに強くなり、やりがいにつながつています。

ふだん、あまり話をする機会の少ない利用者の方とも『わくわくキッチン』を通して、かかわりがもてているように感じます。また調理員としても、利用者の方に食事をおいしいと喜んでいたり、『わくわくキッチン』をきっかけに、利用者の方の日常に1つ楽しみが増え、また調理を通して、自分たちで作つたのだという達成感が芽生え「次は○○に挑戦してみたい」と意欲的な言葉が

今後、利用者の方が全員参加できるような調理内容の検討や、支援員・調理員・栄養士の連携を密に図つていかなければならぬといいう課題があります。

これからも「温かみのある、ワクワクするような喜ばれる食事作り」を目指し、実現に向けて取り組んでいきたいと考えております。

あすわ就労支援センター
副主任 堀 美知恵